



資料館だより

No.51
2015年
2月号

過去と未来がひびきあう

—ようこそ、エコミューズへ。

www.aozora.or.jp/shiryoku/

あおぞら
財団付属

西淀川・公害と環境資料館

エコミューズ

未来に共につなげよう公害資料館の“わ

第2回公害資料館連携フォーラムin富山 開催しました



第2回目の公害資料館連携フォーラムを2014年12月5日から7日までの3日間、富山のイタイイタイ病資料館で開催しました。全国の公害地域から公害を伝えることに関心がある人たちが集い、熱い議論が交わされました。

議論のテーマは「展示」「アウトリーチ」「資料保存」「学校教育」「マネジメント」と多種多様でありましたが、その中で「企業との関係」について考える分科会にはイタイイタイ病の原因企業である神岡鉱業株式会社(元:三井金属)が登壇して、裁判後の公害をなくす取り組みを発表しました。原因企業がオープンな場で公害対策について発言することは初めてのことでした。企業からは、「過去は、資料館で見ることにはできるが、今、どうしているのかというのは、現地にきていただいて見てもらうのが一番良いと思うので、資料館の夏休みのツアーのようなものは今後も続けたい。海外からの研修生を受け入れる時にも、我々の経験を伝えて、東南アジアのほうで同じことを起こさないようにしていきたい。」という発言がありました。公害を伝える取組がこれまでの企業責任を追及する立場から、共に考える時代に変わったことを世間にアピールする場となりました。



新聞報道やテレビニュースでの報道も多く、「公害問題、対立を乗り越え」と伝えられました。ネットワークは始まったばかりですが、公害を伝えることをよりよくするためにこれからも議論を重ねていきたいと思えます。来年は、四日市で開催です。ぜひご参加ください。(林)



岐阜新聞1月6日夕刊

●ESDユネスコ世界会議に参加●

2014年11月10日～13日、「持続可能な開発のための教育(ESD)」に関するユネスコ世界会議」が名古屋国際会議場で開催されました。最終年を迎える「国連ESDの10年」の成果を検証する国際会議で、あおぞら財団は(特活)開発教育協会(DEAR)と(特活)さっぽろ自由学校「遊」との共催で、サイドイベントを開催しました。

ESDとは、地球規模で解決困難な問題が山積する現状に対して、人間のみならず自然とも共存できる公正な地球社会づくりをめざして行われる教育です。今回のサイドイベント



は「マイノリティの視点に立ったESD～地域の事例と今後のための提案～」と題し、11/12に開催しました。

開発教育協会の西あいさんのコーディネートで、さっぽろ自由学校「遊」の小泉雅弘さんが「アイヌ民族の権利回復とESD」と題して報告。民族共生に向けて、自然とともに生きてきたアイヌ民族と対話を重ねているが、文化的背景・歴史的立場の違いから非常に困難な場面もある、けれど学びあいがながらやっていく必要があると話されました。あおぞら財団の林からは、西淀川の公害の概要を報告した上で、地域の関係性の再構築として、菜の花プロジェクトやスタディツアーなど、教育によっていろいろな主体をつなぐことができた事例を紹介しました。

岩崎裕保さんからはESDの今後について、グローバル・アクション・プログラム(GAP)が紹介され、今後も市民参加のもとESDを推進していくことが呼びかけられました。

ESDは非常に包括的な概念で、環境教育をはじめ開発教育・人権教育・平和教育などあらゆるアプローチで取り組む必要がある教育です。あおぞら財団としてもESDに積極的に取り組んでいきたいと思えます。(栗本)



「ESDの10年」関係省庁連絡会議が発行した「ジャパンレポート」でも「公害地域のESD」としてあおぞら財団の取組みが掲載されました。

